



だいじょうぶ。ともにあるこう。

(2011. 4. 9)

三鷹市議会議員

野村 のむら ようこ 羊子

といっしょにつくる三鷹の会ニュースno.43

東日本大震災

～東京電力福島第1原子力発電所事故～によせて

様々な形で被災し、避難生活を余儀なくさせられている多くの方々に、心よりお見舞いいたします。1日も早い復興をお祈りすると同時に、思いを寄せて支援をしていきたいと思ひます。

福島では、「ゆっくりとしたチェルノブイリ事故」が進行中です。



政府は、最悪の事態を想定し、それを回避するための対策をとるというリスク・マネージメントが全くできていないと言わざるをえません。今起っている緊急かつ重大な危機に対処できず、しかも情報を公開せずに国民を混乱に陥れています。

最終的には、チェルノブイリ事故で放出された以上の放射性物質が環境に放出されるだろうと、予測されています。世界に放射能汚染を広げた加害責任も自覚しつつ、放射能汚染のリスクを減らしつつ、この現実を生きる術を身につけていく事が求められているのではないのでしょうか。

■福島第1原発は、廃炉へ！

一刻も早く石棺化するなどして、放射能物質の放出をできる限り抑えるべきです。

放水し続ければ、放射能汚染水も流出し続けます。いたずらに過酷な放射能汚染下での作業を長引かせることなく、原子炉と放射能を封じ込める手立てをとることを、国に求めます。

◆自然エネルギーへの転換

地熱、落差4、5mの小水力、海上の風力や波動等々、様々な研究開発がされています。小型であれば実用可能です。巨大発電所による長距離送電はやめ、蓄電池を活用したエネルギーの地産地消をめざしましょう。

三鷹を本当のエコタウンへ。単に省エネ・節電ではないエネルギー施策の根本からの見直しを求めています。

◆いのち最優先の自治体へ

巨大ハコモノ建設をやめ、いのちに直結する施策を。例えば、大気、水、食物の放射能を測定し、数値を公表する。三鷹の路地野菜をハウス化し、汚染されない野菜を学校・保育園給食に。

放射能汚染を避けるために・・・

- ◆幼い子どもを守り、自分の身を守る。
- * 風向・風力に注意し、放射性雲に備える。
→光化学スモッグ警報や花粉・黄砂予報のような放射性雲警報を新設、常に情報提供する体制作りを求めたい。気象庁と文科省が連携すれば可能。
- * 雨に濡れないようにし、シャワーで洗い流す。
- * 帽子・上着は玄関に留め、中に持ち込まない。
- * 砂場や芝生で遊ぶのは避ける。
→外部被曝はマスクや、付着したものを洗い流すなど、「こまめな花粉対策」で対応が可能。
- * 子どもに必要に応じてヨード剤を服用させる。
- * ヨードを多く含む乾燥海草類を摂る。
- * 汚染されていない水を確保し、幼い子どもに優先させる。
- * 高濃度放射能が放出している機関は乳幼児や妊婦は、高濃度汚染地域からできる限り避難する。
→数年間の集団疎開やホームステイを含む避難生活を国が保証すべき。
- ◆放射性物質とは；自然界に存在するヨウ素 127 と、原発で生成されるヨウ素 131 は以て異なるものです。体内摂取の内部被曝では、ヨウ素は甲状腺に、セシウムは筋肉に、ストロンチウムは骨に蓄積されます。長時間にわたる放射線による被曝で遺伝子等が影響をうけます。特に幼い子どもたちが慢性疾患そして癌になる確率が高まります。次世代への影響も少なからず報告されています。

■3月議会

■2011年度予算案可決

3/11は予算委員会の最中でした。この日は休会となりましたが、その後は例年通り実施。

総額650億円の予算が可決されました。この震災によって、国は大型の補正予算を組む予定です。補正予算による自治体への影響は未定ですが、エネルギー政策の見直しを含め、自治体独自の政策見直しも必要ではないでしょうか。

多摩青果跡地の予算を含むため、一般会計予算案に反対。にじ・共産の反対、賛成多数で可決。

■三鷹市学童保育所条例の一部を改正する条例；都の補助により、**学童保育所の利用時間の延長と延長料金を設定**。全会一致で可決。

■三鷹市乳幼児の医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例；**乳幼児医療費助成の所得制限の撤廃**。全会一致で可決。

■**負担付きの寄附**を受けることについて；多摩青果跡地の建物を取り壊し費用の市が負担することを条件に寄附を受ける。にじ・共産が反対。

■野村が提案した意見書「障がいのある子どもの放課後活動に関わる意見書」「希望するすべての子どもが高校教育を保障されるための緊急の対応を求める意見書」は賛成多数で可決。



■野村羊子の一般質問

1市民生活に展望の開けるまちづくりについて

(1) 危険者朽空き家対策について

ア 三鷹市における空き家の現状について

イ 危険者朽空き家を未然防止するための今後の施策について

・リバースマゲージや定期借家制度の積極的活用と情報の周知、庭や家屋の見守りによる孤立防止策の提案。

→国交省もようやく調査し始めたところ。国の動向を注視する、との答弁。

(2) 子育て支援策について

ア 「子ども・子育て新システム」のとりえ方について

イ 子育てにおいて公が担う責任と、公立保育園のあり方について

・「子ども子育て新システム」の問題点を指摘し、保育が必要な子どもに公平に保育・教育が保障される制度へ。地域での子育てにも公立保育園の活用を提案。

野村羊子といっしょにつくる三鷹の会No.43

〒181-0013 三鷹市下連雀3-30-12-104

Tel&Fax:0422-72-2425

E-mail: issyonokai@nomura-yoko.net

Url: <http://www.nomura-yoko.net>



■報酬の二重取りになるとして積み立てていた審議会等の委員報酬は、4年間で358,200円（税支払後）となりました。三鷹市に支部・支局や募金窓口のない下記の団体に、東日本大震災被災地支援活動を指定して寄附をいたします。

★NPO法人アトピッ子地球の子ネットワーク

被災したアレルギー患者への支援活動、アレルギーに関する相談などを実施。

★ジョイセフ JOICFP

東北地方太平洋沖地震での、被災地の女性・妊産婦支援を行っている。

★セーブ・ザ・チルドレン Save the Children Japan

被災した子どもたちのために、避難所などに設置する安心・安全な空間「こどもひろば」を宮城県・岩手県の15か所で実施。

★認定NPOピースウィンズジャパン Peace Winds Japan

今後の中長期的目標として①仮設住宅入居者に

対する生活用品の提供②子どもの遊び場の提供と心のケアを実施。

★3.11絵本プロジェクトいわて

被災地の子どもたちに絵本を届けよう！全国から寄贈された絵本等を被災地に届ける。★

★せんだい・みやぎNPOセンター

宮城県内の被災地と、全国の様々な専門性を持つNPOや企業をつなぎ、被災者を支援するプロジェクトを進める。

★茨城NPOセンター・コモンズ

「ホープ茨城募金」主に茨城県北と隣接するいわき市の被災者を支援。

★福島県内の支援活動団体（未定）

